

ひょうご 水百景

No.144 八木川（養父市八鹿町八鹿）

～八鹿の町並みのシンボル、清流・酒蔵・煉瓦煙突・妙見山～



写真-1 八木川に架かる仲町歩道橋から撮影（平成27年8月）

■ 八鹿の町並みのシンボルとなっている酒蔵と八木川の流れ

上の写真は、養父市役所近くの八木川に架かる仲町歩道橋から、酒蔵とその向こうにそびえる妙見山を撮ったものです。清流八木川の流れに沿って、上部に漆喰（しっくい）、下部に焼杉板の外壁を持つ酒蔵（仕込蔵）と赤い煉瓦でつくられた丸い煙突。煙突の上部には「銘酒 山陰美人」の白い文字が浮かび、その向こうには養父市の最高峰である妙見山（1,139m）を望むことができ、これが八鹿の町並みのシンボルになっています。

かつて、有名なピアニスト館野泉※¹（たてのいずみ）さんが、八鹿文化会館での演奏のため宿泊していた近くの旅館「鳥林」（とりりん：今は廃業）から出たとき、ちょうどこの景色が目に入り「八鹿にはとても素晴らしい風景があるんですね」と言われたことから見直された景色だそうです。

「鳥林」があった場所は、八木川の右岸道路に面して屋岡橋（やおかばし）と仲町歩道橋のちょうど中間の位置なので、写真-1 とほぼ同じ景色を館野さんはご覧になったと思われます。

また、写真-2 は八木川沿いに設けられた堤外水路です。筆者は、この水が「山陰美人」の仕込水に使用されているのでは、と思い調べてみると違っていました。仕込水は、山の方から流れて来る地下水を井戸から汲み上げて使用していたそうです。

ここは、養父土木事務所から 1km もないので、筆者も何度もこの景色を見に来ています。



写真-2 護岸沿いの堤外水路（平成27年8月撮影）

※1 舘野 泉：昭和 11（1936）年東京に生まれる。東京藝術大学音楽学部ピアノ科を首席で卒業、昭和 39（1964）年からフィンランドの首都ヘルシンキに居住。昭和 43（1968）年、メシアン・コンクールで第 2 位。同年より国立シベリウス・アカデミーの教授を務めたが、昭和 56（1981）年以後フィンランド政府より芸術家年金を与えられ、以降教職を退いて演奏活動に専念している。平成 14（2002）年 1 月 9 日、フィンランド・タンペレでの演奏が終わってピアノから 3 歩ほど歩いた所で脳溢血のため転倒し右半身に麻痺が残る。リハビリを経ても右手が不自由のままであったが、平成 15（2003）年 8 月のオウルンサロ音楽祭で復帰を果たす。以後「左手のピアニスト」として両手奏法に引けを取らないばかりか、新しい演奏法を編み出し、精力的にコンサート活動を続けている。



写真-3 舘野 泉 （©満田聡）

なお、舘野さんは、復帰後の平成 17（2005）年、平成 22（2010）年に養父市のビバホールでコンサートを開いているが、八木川と酒蔵の景色を称えたのは脳溢血で倒れる前である。

■ 『山陰美人』という銘柄の酒をつくっていた養父郡酒造

八鹿の町並みのシンボルになっている仕込蔵は、「山陰美人」を代表銘柄とする（有）養父郡酒造のものです。元禄 13（1700）年の創業ということで 300 年を超える歴史がありましたが、残念ながら平成 20（2008）年頃に操業を止めてしまったそうです。



写真-4 「山陰美人」の酒ラベル
（『昭和の酒ラベルギャラリー』から引用）

仕込蔵の建築時期は、伝聞によると主屋（写真-5）が明治 33（1900）年頃で、付属の倉庫、土蔵、離れの建物も主屋と同時期に建てられたそうです。

旧街道に面した主屋の構造形式は、木造 2 階建て平入りで、越屋根^{※2}の付いた屋根は棧瓦葺きとし、瓦は艶のある黒色の釉薬瓦（八鹿瓦^{※3}）を使用しています。外壁は黒漆喰塗り、2 階の開口部の周囲に飾り漆喰縁を設け、開口部には防犯対策として鉄格子が組み込まれています。明治時代中期以降の但馬地域の建物によくみられる手法で、この地域の特徴をよく表しています。

養父郡酒造の主屋の横にある土蔵の壁には大きな 2 つの目玉と、少しずれた位置にある窓が目に入ります。よく見るとあの「トトロ」のようで、地元では「トトロの壁」と呼ばれているとか（写真-6）。



写真-5 越屋根のある主屋



写真-6 「トトロの壁」と呼ばれている土蔵

仕込蔵は、明治 40（1907）年頃、他の場所より移築したものとされています。間口 6 間（≒10.9m）、奥行 22 間（≒40.0m）の大きな建物で、屋根は瓦葺き、外壁下部は焼杉板張りで覆われ、上部は漆喰塗りです。移築前の用途は不明です。2 階建ての建物で、1 階に酒の仕込樽が置かれ、2 階は倉庫として使われていたとか。

屋根瓦の状態もよく漆喰の外壁も美しく、見た目はそれほど古さを感じなかったのが明治時代の建築と知って少し意外でした。

仕込蔵の裏手で作業していた地元の方に聞くと、漆喰壁や焼杉板などはリフォームしているとか。なお、煉瓦造の煙突は大正 2（1913）年頃につくられたものだそうです。



写真-7 仕込蔵と八木川（護岸沿いに堤外水路）



写真-8 仕込蔵の山側の面

※2 越屋根：大屋根の棟に、採光、煙出し、通風などのために設ける開口部を覆う小さな屋根。

※3 八鹿瓦：明治5（1872）年に八鹿村の植木清兵衛氏が島根県から石州瓦の職人を招いて瓦生産を始めた。これが石州瓦をルーツとした八鹿瓦である。明治30年代までに小河愛助氏など13人の職人が島根県からやって来た。昭和4（1929）年まで、瓦や水甕、播鉢、火鉢などの生活に必要な陶器を生産し、八鹿焼は地場産業となった。今も残っている旧グンゼ八鹿工場の正門にある守衛所の屋根瓦はすべて八鹿瓦で葺かれている。



図-1 養父市八鹿町中心部の地図

■ 養父郡酒造は、円山川の治水などに尽力した小島徹三の生家

仕込蔵の裏手で作業していた地元の方から聞いた話の続きですが、第一次池田内閣の時の法務大臣だった小島徹三の生家がここ養父郡酒造だそうです。近くにある養父市役所の敷地内には、元民社党委員長だった佐々木良作氏の胸像と並んで小島徹三氏の胸像（写真-9）が建っていて、胸像の台座側面には小島徹三の略歴・功績が概ね下記のとおり記されています。

小島徹三は、明治 32 (1899) 年造り酒屋・小島久右衛門の三男として生まれ、八鹿小、豊岡中、第一高等学校、東京帝国大学法学部を卒業後、大正 11 (1922) 年に弁護士を開業、昭和 21 (1946) 年の第 22 回衆議院議員総選挙に兵庫 2 区から出馬し初当選します。以後 10 期 24 年間にわたり中央政界で活躍、その間、衆議院厚生委員長、法務委員長などの要職を歴任し、昭和 35 (1960) 年には第一次池田内閣で法務大臣に就任しています。



写真-9 小島徹三先生之像

一方、郷土の民政にも深く思いを馳せ、昭和 34 (1959) 年の伊勢湾台風における但馬地域の激甚災害地域指定をはじめ、多年の宿望であった円山川治水事業^{※4}や国道 9 号改修事業^{※5}の促進に尽力しました。昭和 51 (1976) 年に引退し、昭和 63 (1988) 年に死去、享年 88。

※4 円山川治水事業：円山川における本格的な改修事業は、大正 9 (1920) 年から昭和 12 (1937) 年にかけて行われ、築堤を主体として屈曲が著しい箇所をショートカットするものであった。その後、兵庫県において維持管理されてきたが、昭和 31 (1956) 年に再び直轄事業となり、第 2 期改修工事として、立野地点における計画高水流量を $3,800\text{m}^3/\text{s}$ とする計画の下、築堤工事などが実施された。昭和 34 (1959) 年 9 月の伊勢湾台風により流域全体に大きな被害が発生したため、昭和 35 (1960) 年には立野地点の計画高水流量を $4,500\text{m}^3/\text{s}$ とする総体計画が策定され、築堤工事や排水機場整備による市街地の内水対策が実施された。昭和 41 (1966) 年には一級河川指定に伴い、総体計画を踏襲した工事実施基本計画が策定されている。なお、現在、立野地点における基本高水のピーク流量は $6,400\text{m}^3/\text{s}$ である。

※5 国道 9 号改修事業：国道 9 号は、京都市から鳥取市を通過して下関市に至る日本海側では唯一の幹線道路であったが、兵庫県内では八井谷 (やいだに) 峠、春來峠、蒲生 (がもう) 峠などが連なり、道路幅は狭く、冬は雪が多いので交通の難所であった。

「但馬の開発は道路から」の掛け声のもと、昭和 33 (1958) 年 6 月、国土総合開発の一環として建設省直轄事業による国道 9 号但馬国道改築工事 (L=84.7km、W=6.5~9.5m) に着手した。当時、兵庫県内を走る国道 9 号を「但馬国道」と呼んでいた。、旧関宮町では「関宮ループ」と呼ばれる 3 つの橋から成るループ橋が昭和 41 (1966) 年に完成、八井谷峠の下には当時但馬最長となる全長 1,256m の但馬トンネルが昭和 40 (1965) 年に完成し、豪雪時も安全に通行できるようになった。

昭和 42 (1967) 年 3 月第 1 次工事が完成し、同月但馬トンネル入り口に完成記念碑が設置された (写真-10)。2 本のコンクリート柱の間に、空に向かって渦巻くブロンズのオブジェが配置され、右側の柱には「指天」の文字が、左側の柱には「但馬国道竣工記念」の文字が記されている。題字は高速道路計画の第一人者であった三野定 (みのさだむ) 氏、制作は小谷謙氏。



写真-10 但馬トンネル完成記念碑



写真-11 関宮ループ (昭和 41 年撮影、『但馬の昭和』から引用)



写真-12 但馬トンネル (高さ制限バーはストックの形)

但馬トンネルは国道 9 号最高地点 (約 400m) です。関宮から但馬トンネルの関宮側坑口まで直線距離 3.4km の標高差は約 200m。単純計算で勾配 5.9%ですが、ループ橋にすることで 25m の標高差を一気に稼いでいます。

■ 洗い場「川いと」で“いと端会議”

軒先がふれあうような町並みの所々に細い路地があり、その路地を抜けて階段を降りると、そこに「川いと」があります。町の中心部のすぐ近くを流れる八木川の堤外にある農業用水路に設けられた「川いと」は、お米や野菜を洗ったり洗濯をしたりする場で、地元の人たちの井戸端会議ならぬ“いと端会議”の場にもなっていたとか。

かつて、豊岡市内を流れる円山川にも、所々に船着場を兼ねた洗い場があって、通称「いと」と呼ばれていたそうです。「いと」は、「端」という字を当てています。



写真-13 農業用水の取水路と川いと



写真-14 川いと

■ モノローグ

八鹿の町並みのシンボルになっている「八木川と酒蔵」の景観ですが、酒蔵の立地には、良質の仕込水があることと酒を運搬するための船着場に近いことも重要な要件です。養父郡酒造が八木川沿いに創業したのは、これらの要件を意識してのものと思われますが、景観上も八木川の流れが重要な役割を果たしています。

この景観がいつまでも続いてほしいと願うのは筆者だけではないと思いますが、景観構成要素の一つである酒蔵は、すでに廃業していることからその維持は難しく微妙な状況が続いているようです。

【参考資料】

- 1 『山陰美人』 八木地区自治協議会 HP
- 2 『旧養父郡酒造～但馬近代化遺産ガイドブック』 但馬県民局 平成31年3月
- 3 『円山川水系河川整備基本方針』 国土交通省河川局 平成20年1月
- 3 『越屋根』 精選版日本国語大辞典
- 4 『政治家小島徹三～但馬事典』 公益財団法人但馬ふるさとづくり協会
- 5 『まちの文化財(202) 但馬国道の竣工記念碑』 養父市教育委員会社会教育課 HP 令和3年9月更新
- 6 『館野泉、小島徹三、ショウジョウソウ』 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
- 7 『但馬情報特急：たじま途中下車の旅～八鹿駅編』 公益財団法人但馬ふるさとづくり協会 令和2年9月
- 8 『目で見える豊岡の廃川』 豊岡市教育委員会編集 昭和46年6月
- 9 『写真アルバム・但馬の昭和』 樹林舎 平成25年12月
- 10 『関宮ループ』 のの字な道 HP 令和4年7月 <https://rasandroad.com/spiral/sekinomiya.html>

ショウジョウソウ (猩々草)

トウダイグサ科トウダイグサ属の一年草。花期に頂部の苞葉が赤く色付き、園芸用に栽培されるが、世界中の熱帯を中心に帰化植物としても分布を広げている。八鹿駅から南へ500mほど行った道端に咲いていた。花期・果期は5月～11月頃。クリスマスに販売される同属のポインセチアは、苞葉全体が赤く色付き、また茎が強く木化する違いがある。



写真-15 ショウジョウソウ (平成25年7月)

※発行：令和4(2022)年3月 『ひょうご水百景』 No.144
改訂：令和8(2026)年6月 『ひょうご水百景』 No.144